

小手丸ちゃん 5250エミュレータ

(2025年2月現在の対応機種一覧)

多機種 対応	業務アプリ 改修不要	画面/文字 サイズ設定
RFID 一括入力	OCR	キーボード フリー設定
スキャン 一括入力	スキャン 累積入力	
Gateway/ 直接接続	セッション 維持機能	WiFi/LTE 有線LAN
BT/無線 プリンタ	SmaPri 印刷	VT100
複数ホスト 自動切替	英語 中国語	

CASIO (IT-G600/IT-G650/DT-X450 /ET-L10)
KEYENCE (BT-A700/BT-A500/BT-A2000/BT-A1000
DX-A400/DX-A600/DX-A800)
ZEBRA (Android各機種 キーボード搭載機種は
MC2200/MC2700/MC3300 (X) /MC20に限る)
DENSO (BHT-M60/BHT-M70/BHT-M80)
Honeywell (EDA51)
CipherLab (RS35/RS36/RS38)
unitech (EA630/HT730/HT330)
SHARP (RZ-H271)
Panasonic (FZ-N1)
Opticon (H-35)
フルノシステムズ (finpad Ag1)
Datalogic (Memor11)
Android 9~14を搭載したハンディターミナル,スマートフォン,タブレット機器全般

RFIDリーダー:
ZEBRA (RFD40)
DENSO (SP1)
KEYENCE (DX-RH1/RM1)

プリンタ:
サトー SBPL/PT200モード
ブチラパン/ラパンなど
東芝テック TPCLモード ポケプリなど

ハンディターミナル・MobileOS向け5250エミュレータを使えば、IBM i との連携運用が簡単に実現可能となります

- ハンディターミナル用5250エミュレータとは、Telnet5250を使用した IBM i 用の端末エミュレータです。 ※ IBM i (旧称 AS/400、i Series、System-i)
- ハンディターミナルは無線LANアクセスポイントを経由して 直接 IBM i へ接続します。(別途、モバイル環境用に通信機能やメンテナンス管理機能を強化したゲートウェイ接続方式の製品もあります。)
- 業務アプリケーションは IBM i 側のみで開発するため、ハンディターミナルとしての開発スキルは必要ありません。RPG含めIBM iでサポートされる開発言語での開発可能です。
- 業務アプリケーションは IBM i 上にあるため、修正時にハンディターミナルのプログラムを入れ替える必要がありません。
- エミュレータとして画面表示などの仕様統一を図っているため、将来サポートされるハンディターミナルへの切替時においても、IBM i 側の業務アプリケーションの変更は最小限に抑えることが可能です。
- ハンディターミナル本体のゲートウェイを設定することにより、ルーター(TCP/IP接続対応ルーター)を超えて IBM i に接続可能です。

Android端末向け5250エミュレータの特長

- Android/Windows系共通基本仕様の5250エミュレータです。
- お客様がハンディ用として**現在使用している画面仕様のまま使用することが可能**です。(行桁単位で画面表示域を指定可能)
- 大きな変更をすることなく、**タッチスクリーン機能**を使用することが可能です。(メニューのボタン化およびファンクションキーガイドのボタン化に対応)
- エミュレータに特化した専用のソフトキーボードを用意しています。
- 画面の縦横表示切替に対応**しています。
- 各機種にて、**混在して使用することが可能**です。
- SATO社ラパン・プチラパン、東芝TEC社ポータブルプリンタ等を無線LAN/Bluetooth接続にて対応。SATOラベル発行ツールSmaPriにも対応。
- 複数ホスト対応**と本番/待機系ホストへの接続に対応しています。
- IBM i (AS/400) への**直接接続とゲートウェイを介した接続に対応**しています。
- ゲートウェイ機能を追加することで、TCPセッションが切断されてしまうようなモバイル環境下でも**5250セッションの維持**を行なうことが可能となります。(たとえコールドブートを行なっても、直近の業務画面から継続使用することが可能となります。)
- 設定ファイルをコピーすることで、複数のハンディへの設定が簡略化できます。
- RFID、OCR**が使用可能です(オプション機能)
- 複数バーコードのスキャン(一括スキャン、累積スキャン)

動作環境

IBM i (AS/400) ver5.3 以降 (ただしTCP/IPにてTelnet5250 接続ができる必要があります)

※IBM社Personal Communicationsにて接続タイプ「TCP/IP 接続のTelnet5250」にて動作する環境

モバイル端末 (2025年2月現在の対応機種一覧)

- ・CASIO (IT-G600/IT-G650/DT-X450/ET-L10)
- ・DENSO (BHT-M60/BHT-M70/BHT-M80)
- ・ZEBRA (Android各機種 キーボード搭載機種は MC2200/MC2700/MC3300(X)/MC20に限る)
- ・KEYENCE(BT-A700/BT-A500/BT-A2000/BT-A1000/DX-A400/DX-A600/DX-A800)
- ・Honeywell (EDA51)
- ・CipherLab (RS35/RS36/RS38)
- ・Unitech (EA630/HT730/HT330)
- ・SHARP (RZ-H271)
- ・Panasonic (FZ-N1)
- ・Opticon (H-35)
- ・フルノシステムズ (finpad Ag1)
- ・Datalogic (Memor11)
- ・その他(Android 9~14 を搭載した、ハンディターミナル・スマートフォン・タブレット機器全般)

※各機種/各Androidバージョン/各キーボードモデルの組み合わせ全てについての動作確認は行なっておりません。
お客様にて動作確認いただいた上でのご使用を推奨しております。

ゲートウェイサーバー

WindowsServer 2012R2 2016 2019 2022 / Windows10 / Windows11

RFIDリーダー

ZEBRA RFD40 DENSO SP1 KEYENCE DX-RH1/RM1

無線LANアクセスポイント

各社より公表されています推奨アクセスポイントをご使用ください。

ラベルプリンタ

プリンタセッションを使用せず、画面上にプリンタコマンドを記述する方法にて印刷を行います。

株式会社サトー プチラパン・ラパンなど Bluetooth/無線LAN接続モデル (SBPL/PT200モード)

東芝テック株式会社 B-EP4DLなど Bluetooth/無線LAN接続モデル (TPCLモード)

※IBM i、System-i、e-server、iSeries、AS/400は米国IBM社の商標または登録商標です。

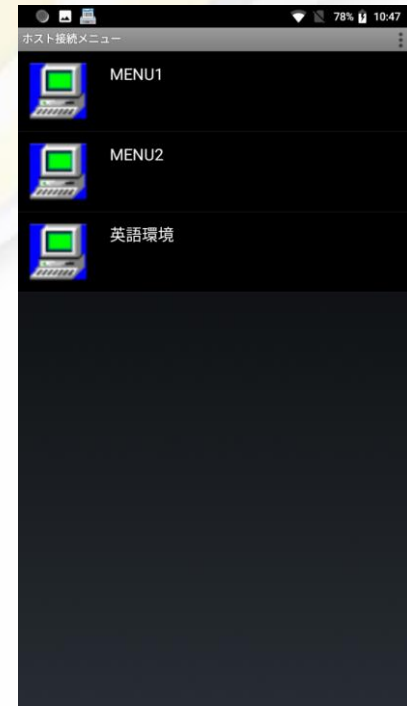
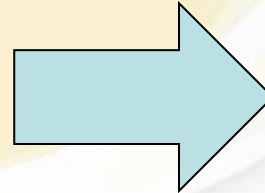
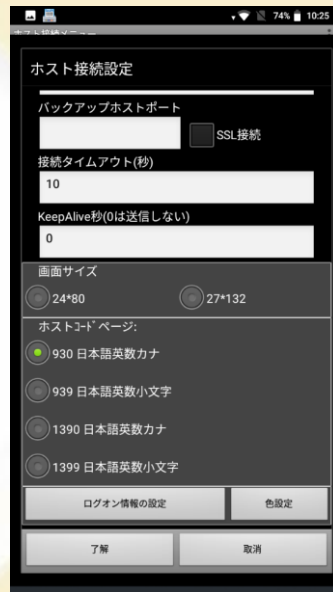
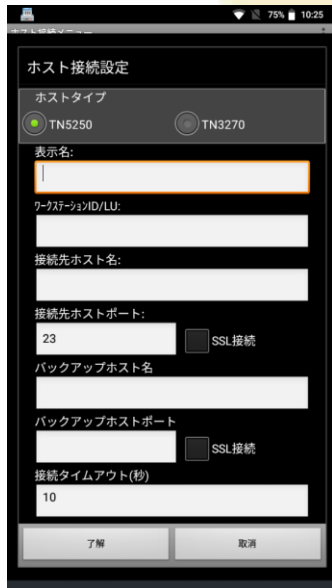
システム構成例



ルーターを越えて接続可能です。
複数拠点で本部の IBM i に接続するような構成でも使用できます。

多機種混在使用が可能です。
本エミュレーター搭載の機種であれば、IBM i 側の仕様は変更することなく混在使用することが可能です。

接続先ホスト選択機能



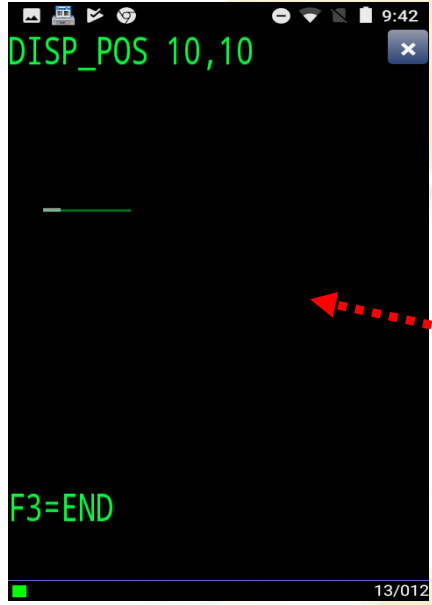
複数ホストの接続運用をされているお客様においては、別プログラムとして提供しているメニュープログラムを利用させていただくことにより、起動時に簡単に接続先を選択していただくことが可能となります。また、エミュレータプログラム本体のショートカットに、パラメーターとして接続先の情報を指定していただくことにより接続ホストを選択することも可能です。

※3270はサポートしておりません。

画面サイズ／位置設定

実際のパーソナル・コミュニケーションズの画面

ハンディターミナルの画面



画面全体での設定画面

開始行	10	開始桁	10
表示行	11	表示桁	22



画面上の一部範囲をハンディに表示します。
ハンディの画面サイズに合わせてIBM i側で画面を作成し、画面サイズ／表示位置を指定して表示させます。
画面全体での設定と画面単位での設定が可能です。

自動サインオン機能

実際のパーソナル・コミュニケーションズの画面

ログオン情報の設定

サインオンタイトル

1 サイン・オン

ユーザID:

6 _____

パスワード:

7 _____

プロシジャー:

8 _____

メニュー:

9 _____

ライブラリ:

10 _____

了解 取消

ログオン情報の設定

ユーザID: _____

パスワード: _____

プロシジャー: _____

メニュー: _____

ライブラリ: _____

了解 取消

サイン・オン

システム : S65FB99F
サブシステム : QBASE
表示装置 : QPADEV000G

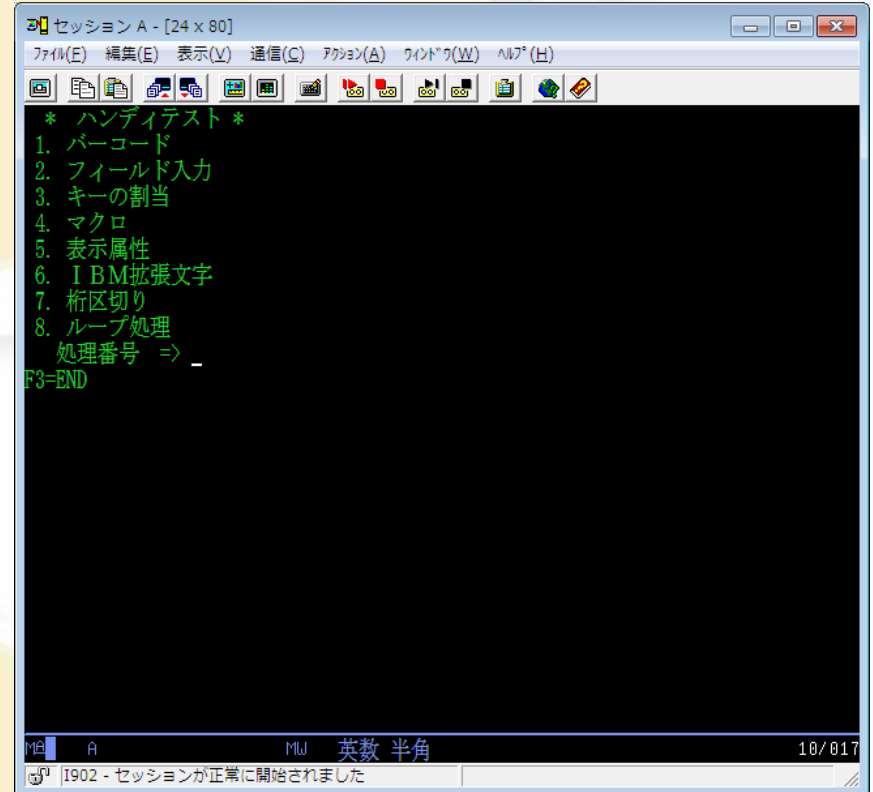
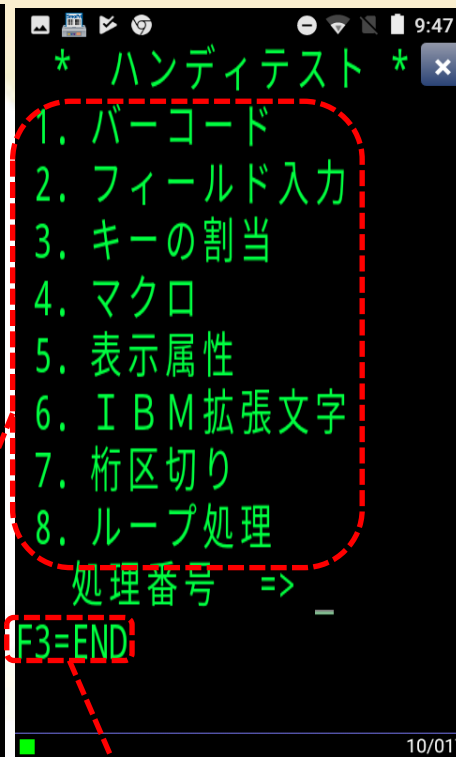
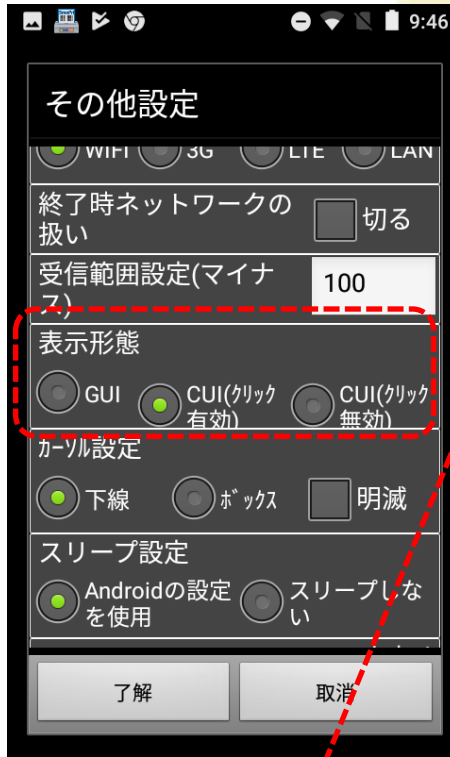
ユーザー : _____
パスワード : _____
プログラム/プロシジャー : _____
メニュー : _____
現行ライブラリ : _____

(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1980, 2003.
英数 半角

自動サインオン設定を利用させていただくことにより、自動サインオンを実現する事が可能です。
また、上記画面例のように、位置設定のみで設定文字列に指定が無い場合には、その項目だけを要求する画面が表示されます。
本画面においてもバーコード入力が可能となっておりますので、より柔軟な運用を行っていただくことが可能です。

画面クリック機能

実際のパーソナル・コミュニケーションズの画面

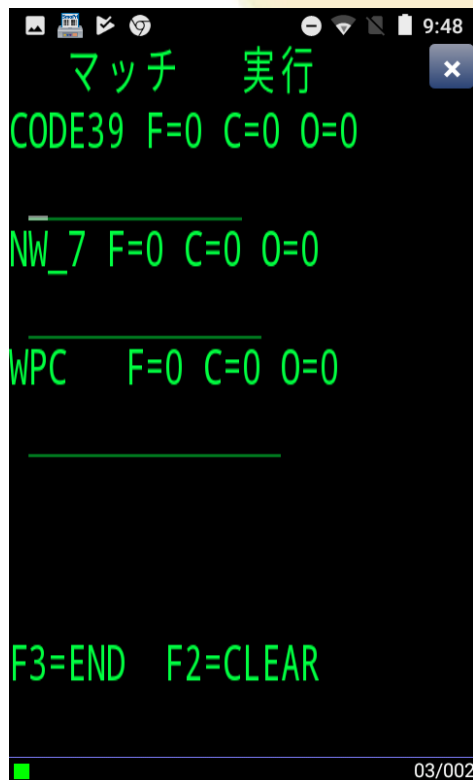


クリック選択が可能となります。

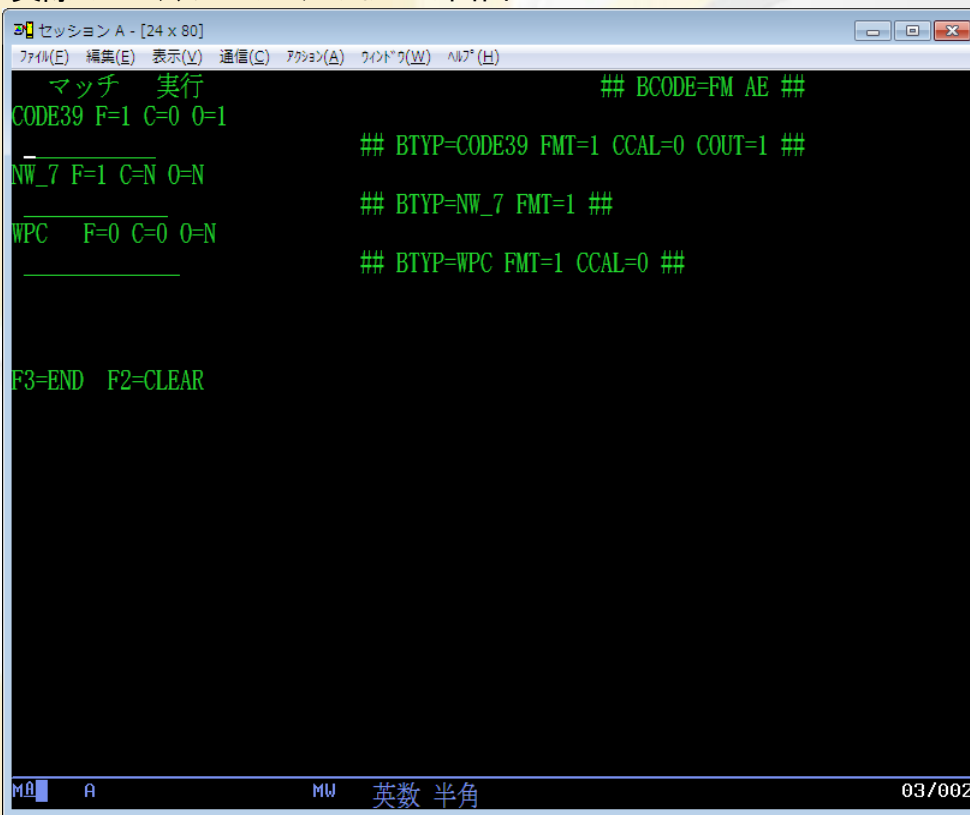
クリックでF3キー押下となります。

表示形態の設定により、CUI/GUIの切替やクリック機能のON/OFFを行う事が可能です。
クリック機能を使用することで、特別なプログラムを作成しなくとも、タッチパネル機能を用いてメニューの選択や表示されているファンクションキーを選択することが可能となります。
※サブファイル画面でも可能です(ver1.3.0.14以降)

マクロ機能



実際のパーソナル・コミュニケーションズの画面



ハンディの表示画面外にあたる場所にマクロを記述することにより、ハンディ特有の様々な制御が簡単にできます。上記の画面は、各フィールドとバーコード種別を自動的にマッチングし、全ての入力満たされたときに自動実行を行うサンプルとなります。

<設定できる内容>

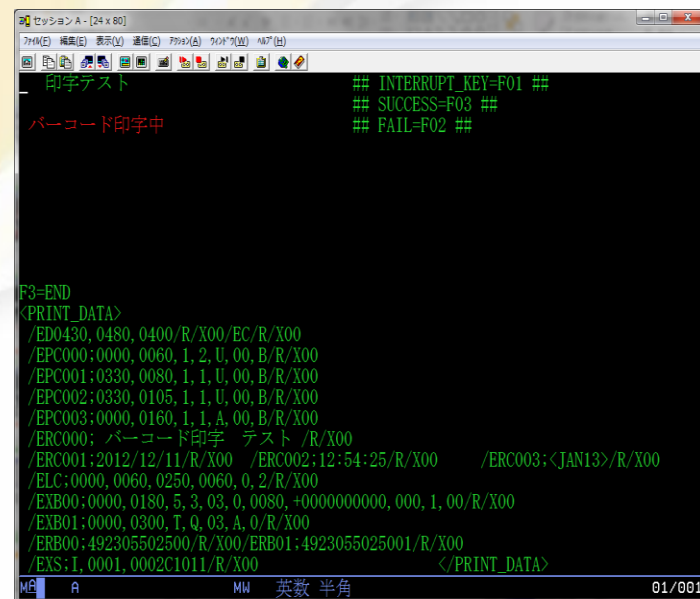
- ・ハイプレーター、エラー時のビーブ音の制御
- ・バーコードの読み取り制御
- ・文字サイズ変更
- ・CUI/GUI表示切換え
- ・画面の描画位置の指定 など

※マクロ機能については、機種により対応できない物があります。

印刷出力

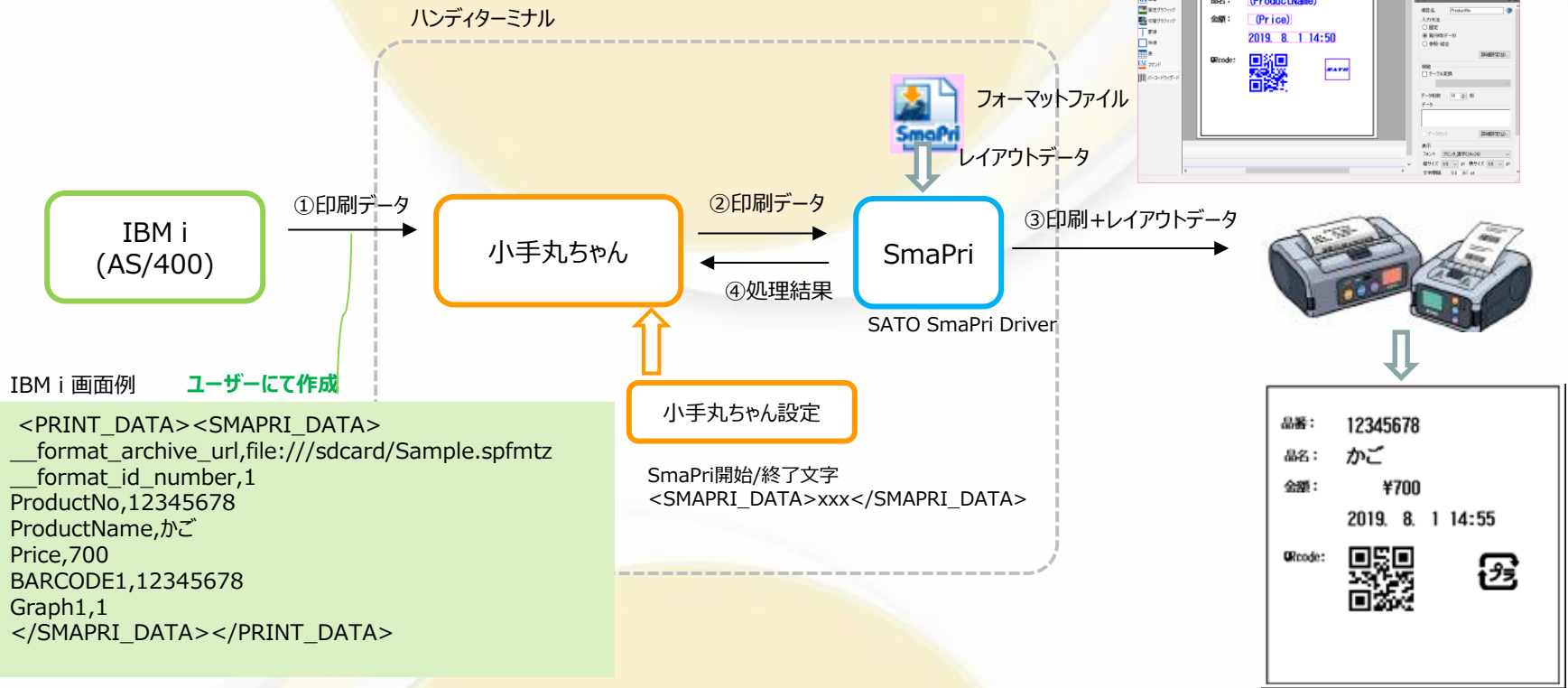


実際のパーソナル・コミュニケーションズの画面



印刷の開始識別子を認識すると、その中に入っている印刷伝文を接続されているモバイルプリンターに出力します。(複数画面にわたる大きな印字データの印刷も可能です。)
画面モードとして、24x80と27x132をサポートしておりますので、24x80のみのエミュレーターに比べると印字データをより多く定義できるため自由度の高い帳票設計が可能となります。
現時点でサポートしているプリンターは、SATO プチラパン (Bluetooth/無線LAN接続)、SATO ラパン (Bluetooth/無線LAN接続)と東芝TECポータブルプリンタ (Bluetooth/無線LAN接続)になります。
SATO社の通信モードは、SBPLモード、PT200/PT400互換モードをサポートします。

SmaPri印刷(Android版のみ)



サトーSmaPriと連携したフォームオーバーレイ印刷が可能です。
 SmaPriと連携することで、SBPL記述では難しかった複雑なレイアウトのラベルを容易に印刷できます。
 IBM i 画面に、可変データのみをSmaPri形式にて表示するだけで印刷されます。
 フォーマットファイル等SmaPriの仕様に関しましては、SmaPriのマニュアルを参照してください。

キーの割付も自由自在



設定プログラムにて、キーの割付を行うことができます。

ハンディにキーの割付を自由に設定できます。

操作に必須のファンクションキーをテンキーに割付けて使用可能です。

ハンディはPCよりキーの数が少ないので画面クリック機能を利用して、画面上のファンクションキーの案内を直接クリックすることでファンクションキーとして利用できるようになりました。

Android機でもキーボードが付いている機種ではキーボード設定が可能です。また、実行キーをボタンに割り当てることも可能です。

ソフトウェアキーボード



5250エミュレーターの操作性を考慮したソフトウェアキーボードが利用できます。

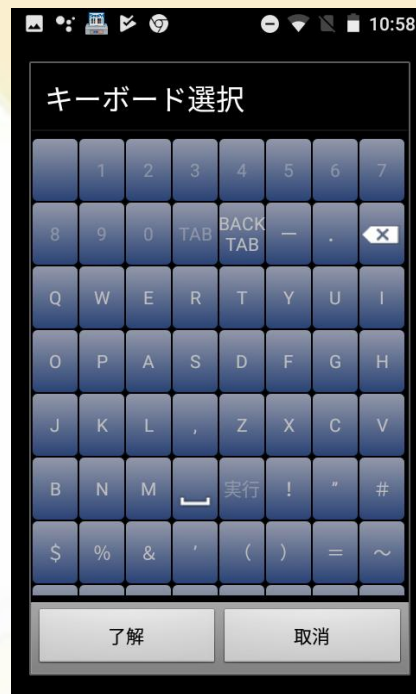
ソフトウェアキーボードの表示は、専用のボタンがある機器については、それを操作することで直接目的とするキーボードを出すこともできますし、ボリュームボタンで表示させたり或いは入力フィールドを直接タップすることでソフトウェアキーボードを表示することが可能となっています。常時表示設定も可能です。

また、カーソルが位置している入力フィールドを上書きして入力の妨げにならないよう、一時的にスクロールするようになっています。

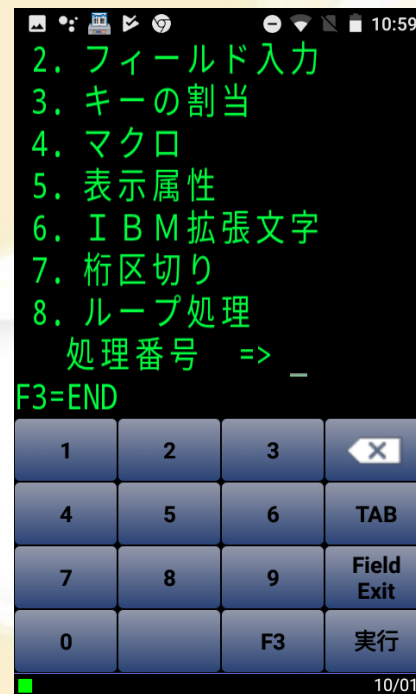
カスタムキーボード



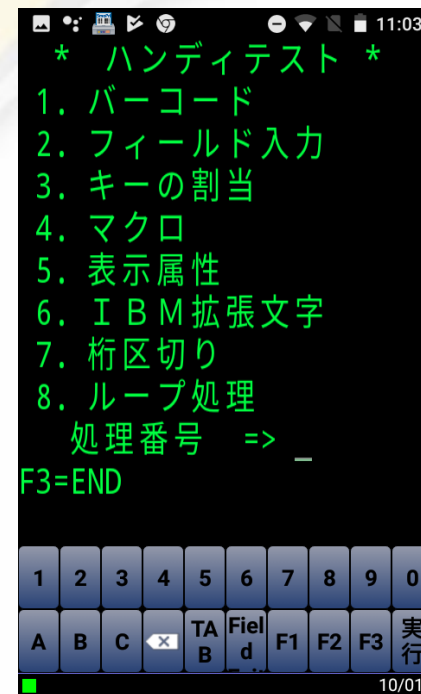
設定画面(4段)



キー選択



4段キー表示



2段キー表示

ユーザー独自のソフトウェアキーボード(カスタムキー)を設定することも可能です。
4段表示(16キー)、2段表示(20キー)のキーボードの好きな場所に必要なキーを割り当てて利用できます。機能キーの割り当ても可能です。

カスタムキーボード(フリー設定)

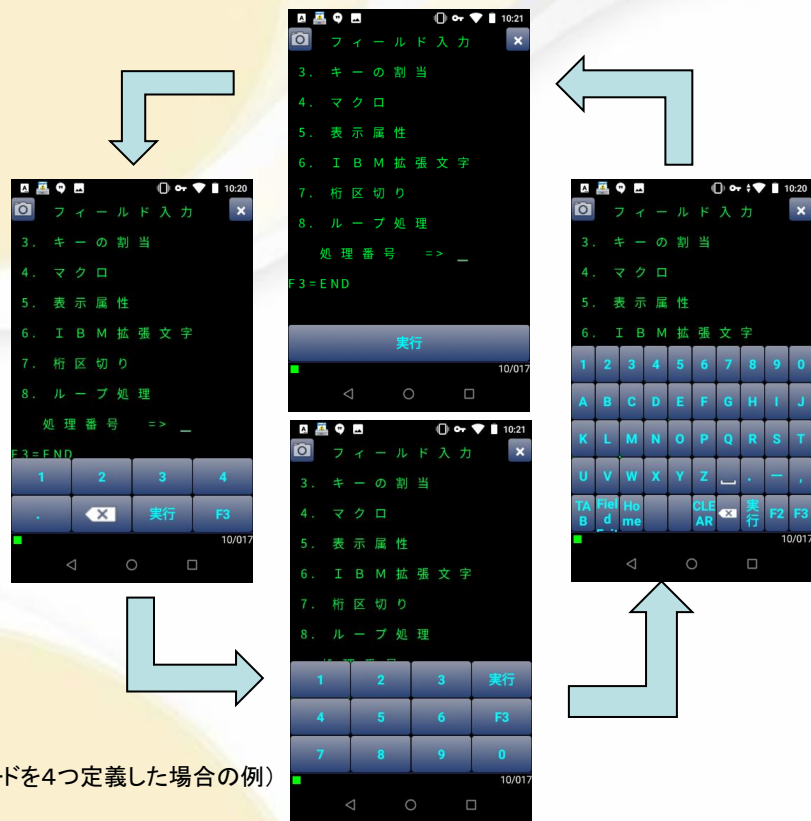


設定画面1



設定画面2

(キーボードを4つ定義した場合の例)



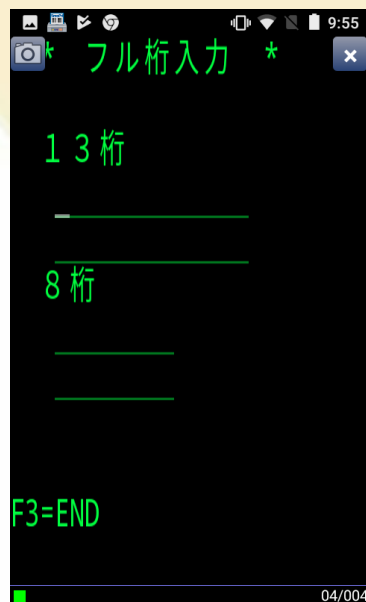
ソフトウェアキーボード(カスタムキー)を自由に設定することも可能です。
ボタンの高さや文字の大きさ/色も設定可能です。

キーボードの数やキー数(行列)も自由に設定して、キーボードの好きな場所に必要なキーを割り当てて利用できます。キーボードの切替はスワイプで行ないます。

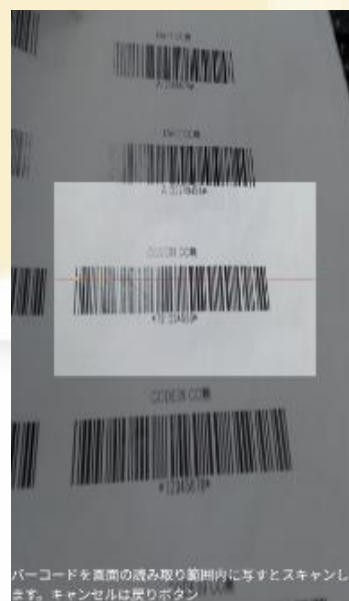
内蔵カメラスキャナ機能



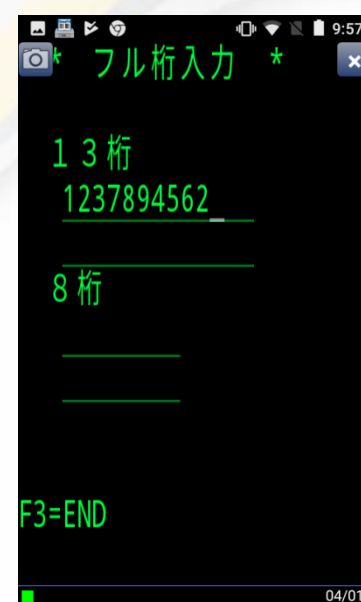
① カメラバーコード読み取りにチェック



② 左上のカメラマークをタップしてカメラスキャナを起動



③ カメラスキャナによりバーコードを読み取る



④ 入力カーソルが位置している場所に読み取ったバーコードデータが反映される

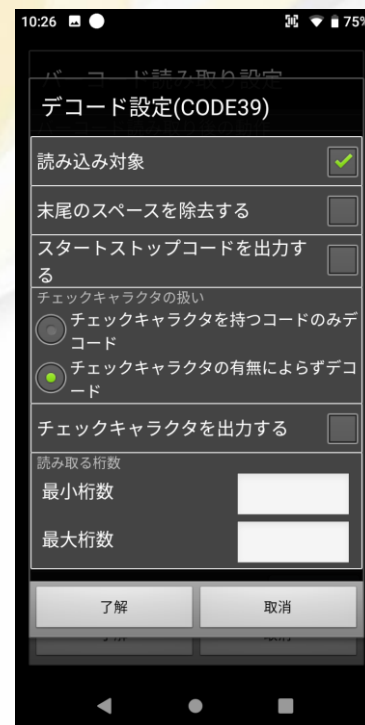
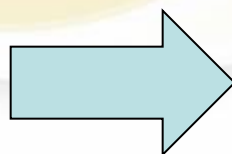
専用のバーコードスキャナを搭載していない機種でも、内蔵カメラを利用してバーコードを読み取ることが可能です。

「バーコード読み取り設定」で「カメラバーコード読み取り」の項目にチェックを入れて頂くことで、画面上的入力フィールドやボタン化されたフィールド以外の部分を連続タップして頂くことで、カメラスキャナが起動されバーコードを読み取ることが可能となります。

※読み取ることが可能なバーコード種類は以下の通りとなっています。

EAN/JAN,UPC,RSS,CODE39,CODE93,CODE128,ITF,NW7,QR,AZTEC,PDF417,DATA_MATRIX

バーコードの規定値設定も自由自在



エミュレーターで使用するバーコードの規定値の設定や自動でキー送信を付加する設定ができます。

あらかじめ扱うバーコードの種類やStart/Stopコード等の付加指定などを定義することが可能となりました。

※従来は機種毎に異なる指定が必要でしたが、同じ操作で設定することが可能となっています。

※本機能はバーコードスキャナの制御APIが公開されている機種のためのサポートとなります。

バーコード上の5250では扱えないコードも 変換して読込可能



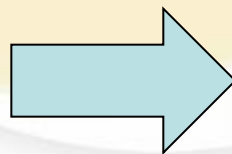
5250では扱う事の出来ない制御コード等を、扱えるコードに置き換えることや読み飛ばす指定を行う事が可能です。

上記の例では、Code128バーコード上に含まれる0x08 (BS)を0x00 (読み飛ばし)に0x0B (VT)を0x09 (TAB)に置き換えています。

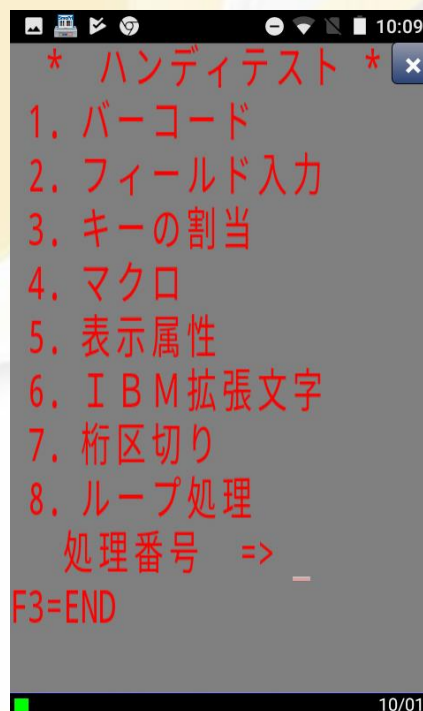
※読替え値に00を指定した場合は、該当のコードが現れた時にはそのコードは読み飛ばしとなります。

※本機能はバーコードスキャナの制御APIが公開されている機種のためのサポートとなります。

色設定



「緑」に対して、
背景色をグレー
前景色を赤 に設定



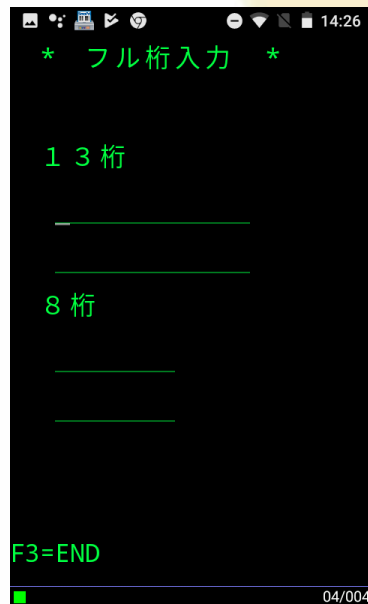
DDSのCOLORキーワードに対する各色のカラーマッピングを変更します。

白黒表示を選択すると、背景が白で黒文字表示されます。

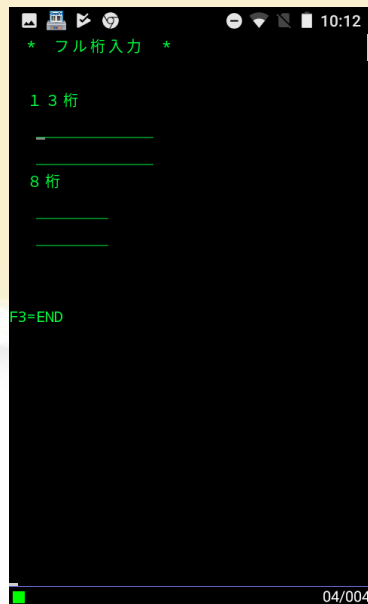
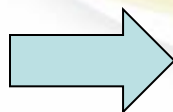
個別設定を選択すると、黒・青・緑・ピンク・赤・青緑・白・黄色に対して個別に表示色と背景色を設定できます。

規定値をクリックすると全ての色のマッピングが規定値になります。

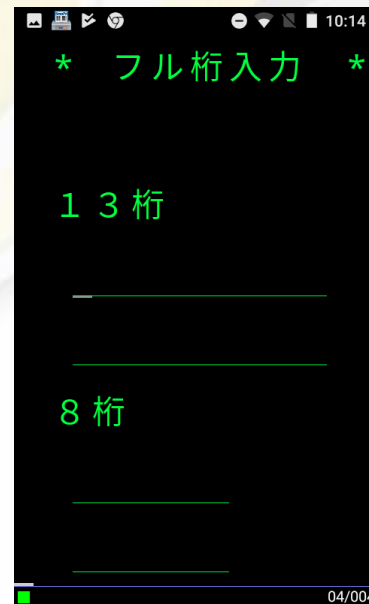
文字サイズやスクロール有無も設定可能



文字サイズ=デフォルト
スクロール=なし



文字サイズ=小さく
スクロール=あり



文字サイズ=大きく
スクロール=あり

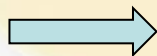
文字サイズやスクロールが設定可能です。(組み合わせた設定も可能です)
スクロールはスワイプにより操作します。
スクロールを有効した状態でも、表示位置を設定することができます。

文字の拡大表示

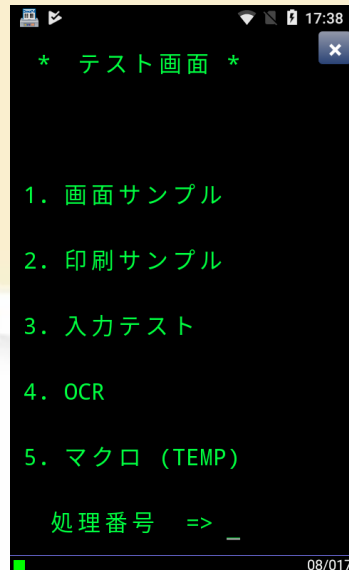


正方形のディスプレイを
想定した画面

8行25桁で設計された業務画面

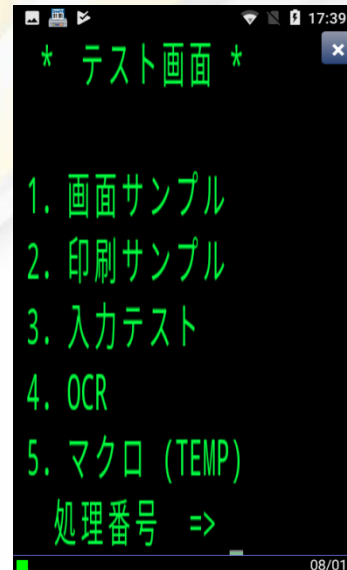


縦に長いディスプレイ
になると...



拡大表示なし

25桁が表示できる文字サイズに
なり行間が空いてしまう



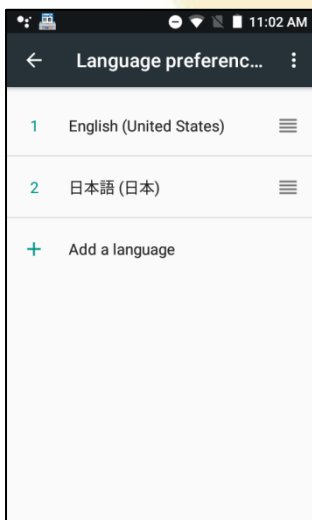
拡大表示あり

行間を詰めて、文字を縦方向に拡大
(文字幅はそのまま)

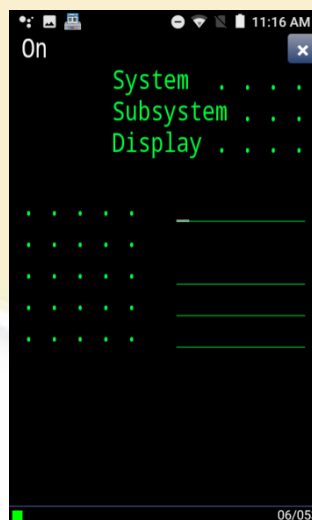
小さな画面から大きな画面の機種へ変更した時、または、画面縦横比の異なる機種へ変更した時など、

通常の文字で表示すると文字が小さく行間が空きすぎてしまいますが、「拡大表示」することで行間をつめて大きな文字で表示することが設定可能です。

言語選択



Androidの設定画面



英語モードでの例

Androidの言語設定により、日本語以外のモードでも使用することが可能です。

<Japanese>

- ・日本語英数カナ(930)
- ・日本語英数小文字(939)
- ・日本語英数カナ(1390)
- ・日本語英数小文字(1399)

<English>

- ・米国 各国共通(03)

<Vietnamese>

- ・ベトナム(1130)

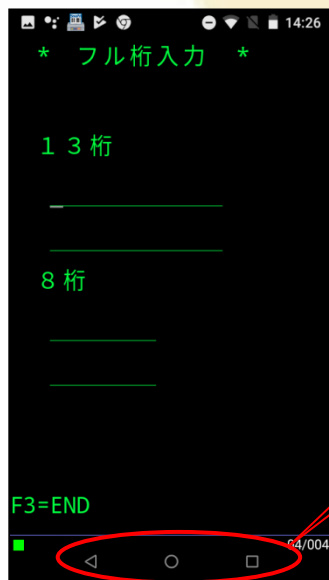
<Simplified Chinese(簡体字)>

- ・中国語(935)

<Traditional Chinese(繁体字)>

- ・中国語(937)

画面固定機能

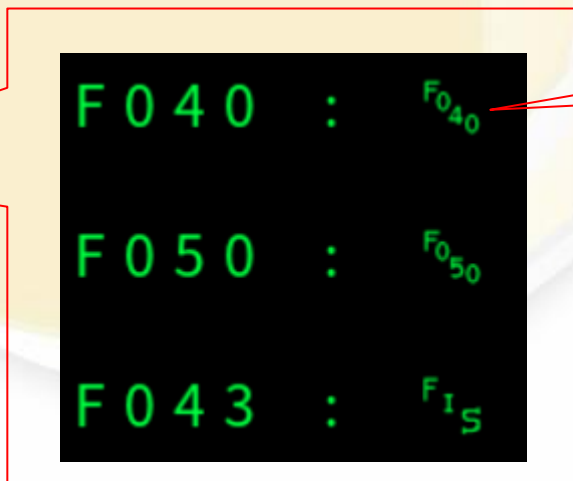


エミュレータ画面が固定され、他の画面に移動することが出来なくなります。

結果として 戻るボタン/ホームボタン/タスクボタン が無効となります。

※Androidバージョンにより、動作が異なる場合があります。

外字／ユニコードのサポート



外字

Windows端末で使用している外字ファイル(eudc.tte)をハンディにコピーすることでハンディ上で外字の出力ができます。



ホストコードページ設定
1390／1399 (ユニコード) が選択可能

スキャン一括入力

一括読みのマクロを記述した画面
(2つのCODE39を一括で読む)

```
* LENGTH 一括 *          ## BCODE=FM LEN CLCT=2 CNT=2 UNQ=1 ##  
  
CODE39 F=0 C=1 O=0 L=15  
123456789012345          ## BTYP=CODE39 FMT=0 CALC=1 COUT=0 LEN=15 ##  
CODE39 F=0 L=7 C=1 O=0  
ABCDEFG                  ## BTYP=CODE39 FMT=0 CALC=1 COUT=0 LEN=7 ##
```

2つのバーコードを一括で読む宣言

読み取り内容が、CODE39の15文字の場合、ここに入る

読み取り内容が、CODE39の7文字の場合、ここに入る



一度のスキャン操作 = 一括読みでスキャン

一括読みのマクロを書くことで、**小手丸ちゃんがスキャナを一括読み用の設定に変え**、一度の読み取り操作で複数バーコードが一括で読み込みされます。読み取った複数のバーコードの内容はIBM i 業務画面の(マクロ記述)条件に応じて各入力フィールドへ振り分けて自動で入力されます。異なるバーコードの組み合わせも可能です。

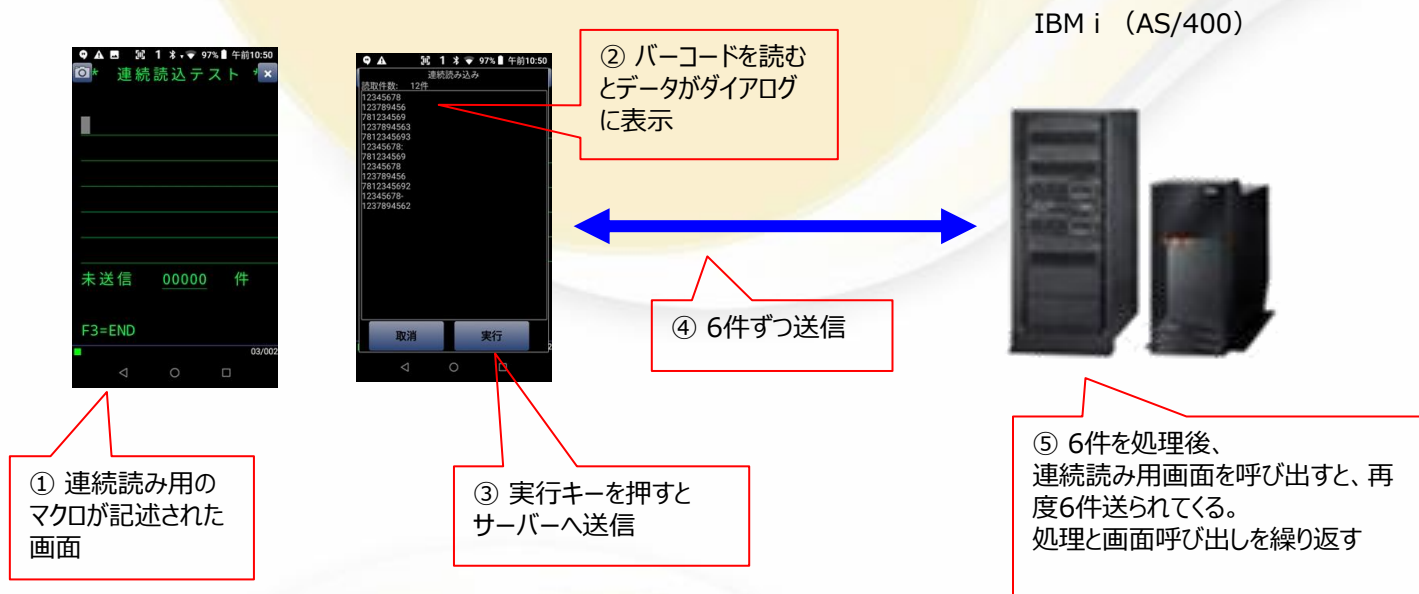
※一括読みが可能な機種のみです

※トリガーを押しながら連続で読むような動作は、「累積入力(連続読み)」のページをご覧ください

※1つの画面内にて、一括読みと単一読みの両方を行なうことはできません

スキャン累積入力(連続読み)

連続読み画面 : 連続読み用マクロ「BTYP=CNTR」を記述した画面
(6件ずつ送信する例)



複数のバーコードをトリガーキーを押しながら連続で読む機能です。

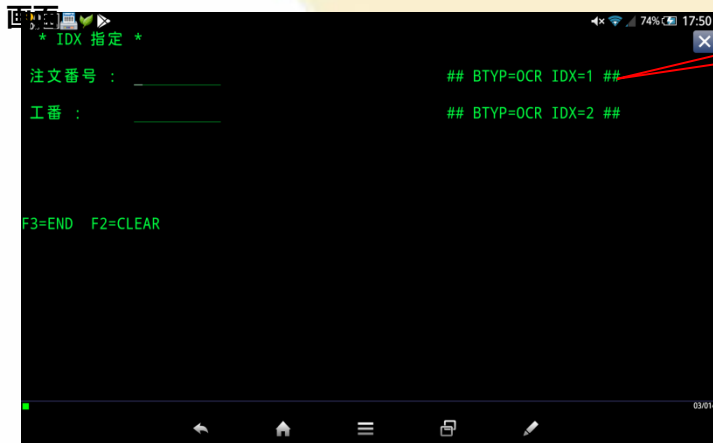
ホストプログラムで連続読み用のマクロを書くことで、**小手丸ちゃんが連続読みを行う画面と認識して**、スキャンを行うと読み込みデータがダイアログに表示されます。(重複した読み取りは表示されません)

画面の入力フィールドの件数ずつ小手丸ちゃんが繰り返し送信を行いますので、業務処理を行なって下さい。読み込んだデータがなくなるまで(未送信データが0件になるまで)繰り返し送信を行います。

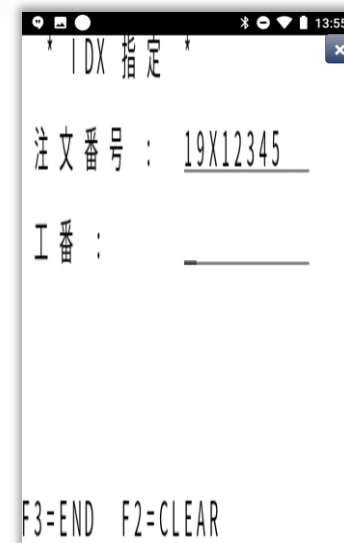
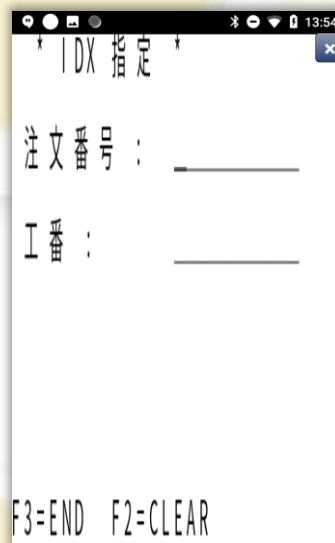
※一部の機種には対応していません

OCR機能（OCRアプリ FISOCR, 小手丸OCR との連携）

OCR用画面：OCRマクロ「BTYP=OCR IDX=n」を記述した



IDX=1のフィルタ設定



注文番号： 19X12345
工番： 19876R5

IBM i の業務画面上でOCRによる読み込みを行いません。

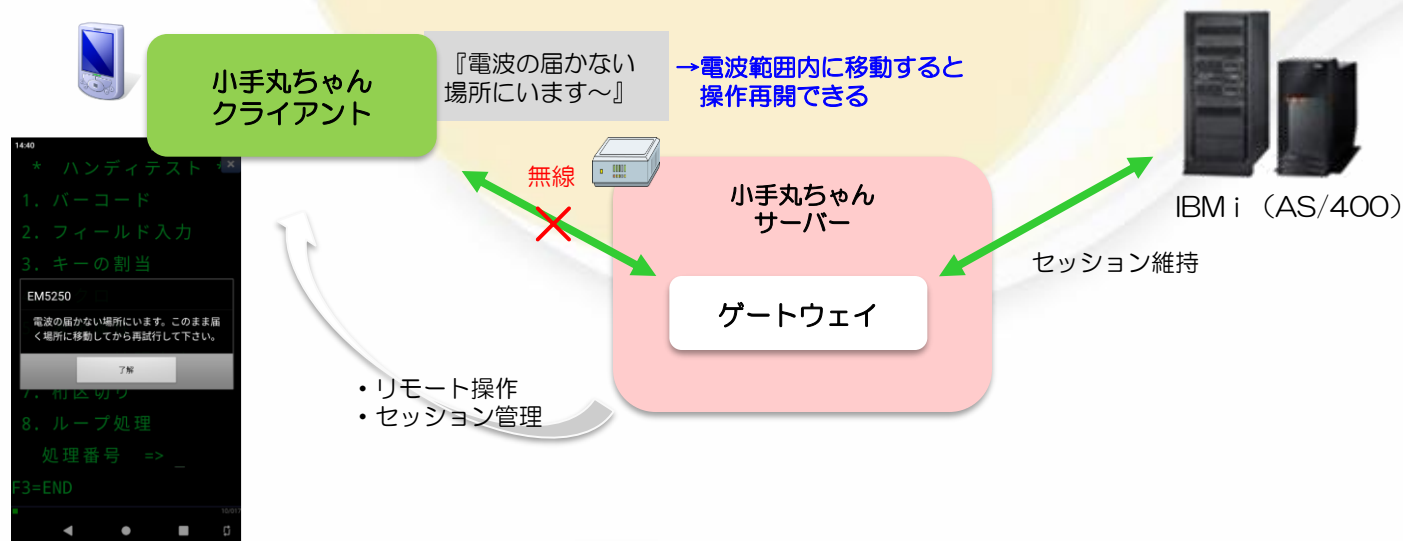
OCRマクロでFISOCRや小手丸OCRの読み取り設定の番号を指定できます。それにより読取対象項目の読取パターン及び出力フォーマットを指定することが可能です。

上記で実際に使用した読取パターン：

IDX1: (19[A-Z]¥¥d(5)) IDX2: (19¥¥d{3}[A-Z]¥¥d{1,2})

※本機能を利用する場合には、別途OCRアプリ「FISOCR」「小手丸OCR」が必要になります。 Android9～14対応 29

ゲートウェイ接続方式（セッション維持）



直接 IBM i へ接続せずに、ゲートウェイサーバーを介し接続することもできます。

ゲートウェイサーバーがセッションを維持するため、無線LAN環境の悪い場所でもセッションを維持しながらの運用が可能です。

ハンディ端末が無線電波圏外となった場合、『電波の届かない場所にあります～』が表示され、無線電波範囲内に移動すると操作を再開できます。

※待機系サーバーを追加しサーバーを2台にすることなどで、サーバー障害を考慮した構成も可能です。

ゲートウェイ接続方式（セッション管理）



小手丸ちゃん
クライアント



小手丸ちゃん
サーバー
ゲートウェイ

```
* フル桁入力 *  
  
1 3桁  
123  
-----  
456  
-----  
8桁  
-----  
  
F3=END  
DEMO 11.05/007
```

EM5250管理画面

ファイル(E) 設定(C) サービス(S) ヘルプ(H)

サービスの状態： 稼動中 ● ● ●

セッション一覧

▲デバイスID	ワークステーションID	接続先ホスト	表示画面	セッション状態
353471050390984				切断
4963105360200124	FISBHT120	192.168.1.109	MAIN ...	接続中
4969001710400006	FISBHT130	192.168.1.109	* ハンディテスト *	接続中
9ED63673D2CA438B9C14B51C48F7697A				切断
AAA				切断
BBB				切断
BTW1002A210125	FISBTW100	192.168.1.109	* フル桁入力 *	接続中
BTW1002A210125x				切断
BTW350CA710120				切断
EA523BD909BC4CECA28CDA357F18F3BC				切断
JG53005141AAA1				切断
JJ4C005291AAA1				切断
JK0000001AAA1				切断
KE54005281AAA1				切断
KE54005321AAA1	FISX200	192.168.1.109	* フル桁入力 *	接続中
KP5301809KAAA1				切断
4011071AAA1				切断
XX				切断
YY				切断
ZZ				切断

セッション切断(I)
設定変更(U)...
新規追加(A)...
削除(D)

各ハンディ端末画面
の状況がわかります

各ハンディ端末の状況を、ゲートウェイサーバーにて見るすることができます。

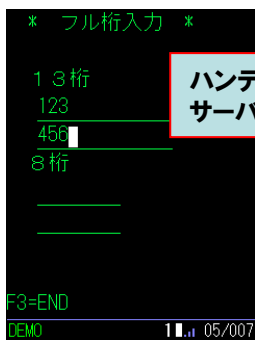
ゲートウェイ接続方式（リモート操作）



小手丸ちゃん
クライアント



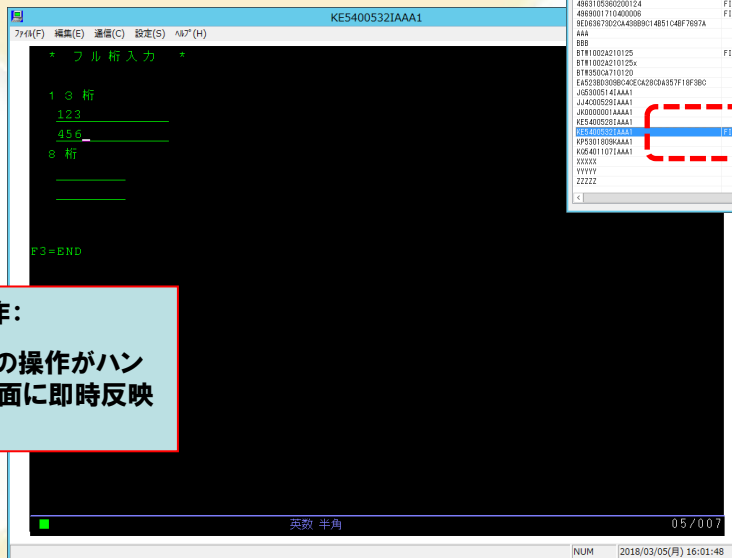
小手丸ちゃん
サーバー
ゲートウェイ



ハンディ端末画面が
サーバーで参照可能



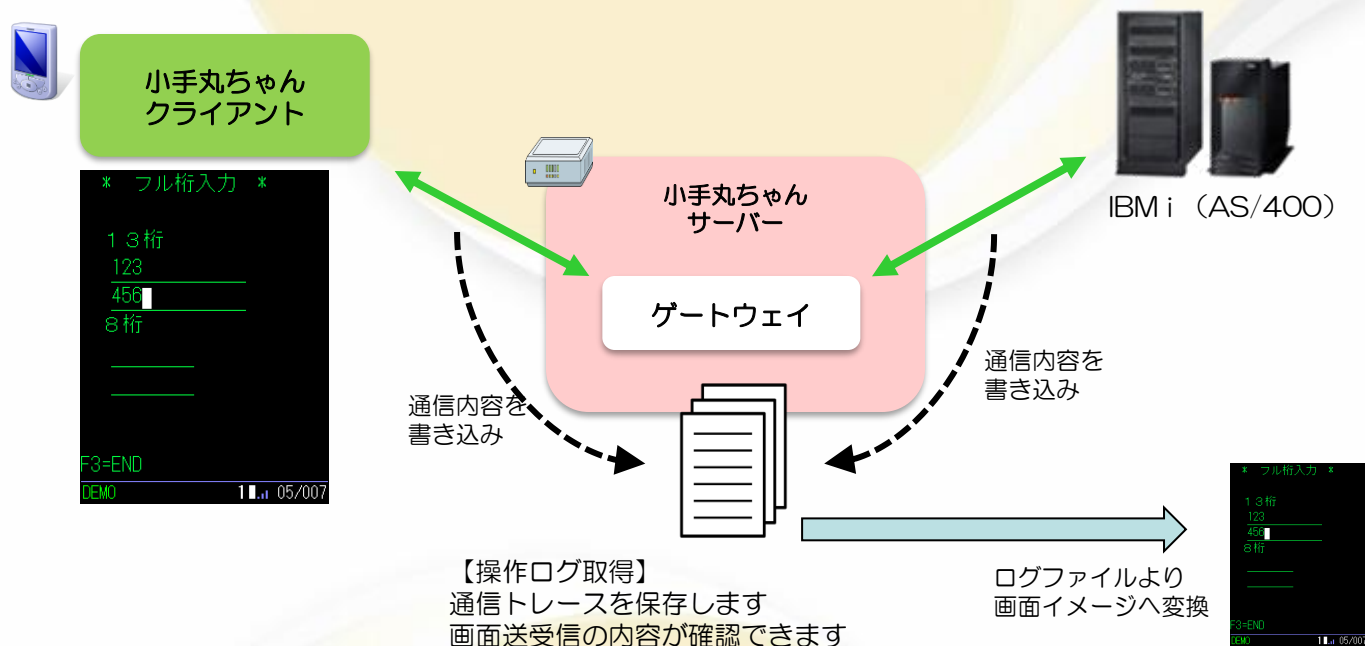
リモート操作:
サーバーでの操作がハン
ディ端末画面に即時反映
されます



ダブルクリックでハン
ディ端末画面が開か
れます

ハンディ端末の画面内容を、ゲートウェイサーバーにて見ることができます。
また、ゲートウェイサーバーでの操作がハンディ端末の画面に反映されます。
(実行キーやPFキーを押したタイミングで反映されます)

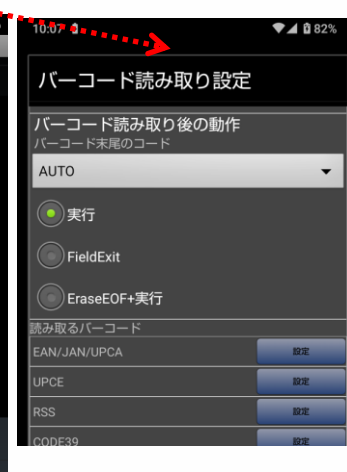
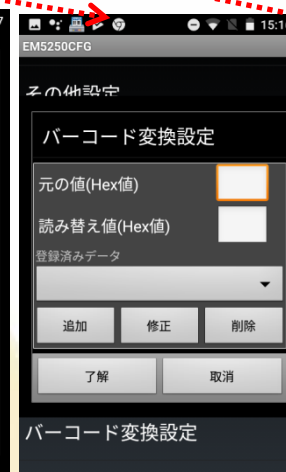
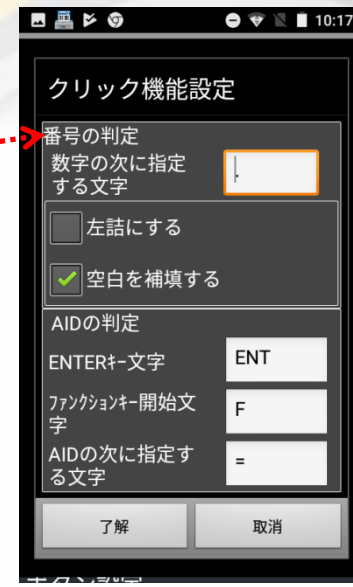
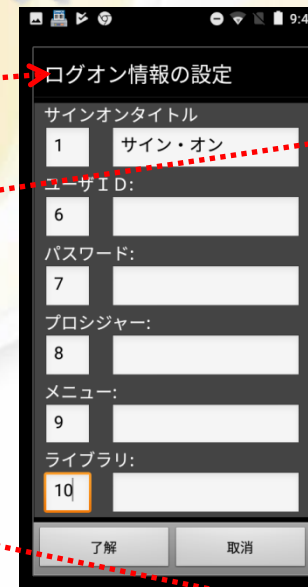
ゲートウェイ接続方式（操作ログ取得）



ゲートウェイサーバーが、端末⇔ゲートウェイ間 ゲートウェイ⇔ホスト間 の通信トレースをログファイルとして保存します。
ログファイルを解析することで、どのような画面が送受信されたかを確認することが可能です。

- ※この機能は、保守サポートをご契約いただくほか、別途有償のオプションが必要です。
- ※一定のHDD容量やCPUのスペックが必要になります。
- ※画面内容の確認は、弊社にてログファイルを解析し、画面イメージへ変換を行いません。

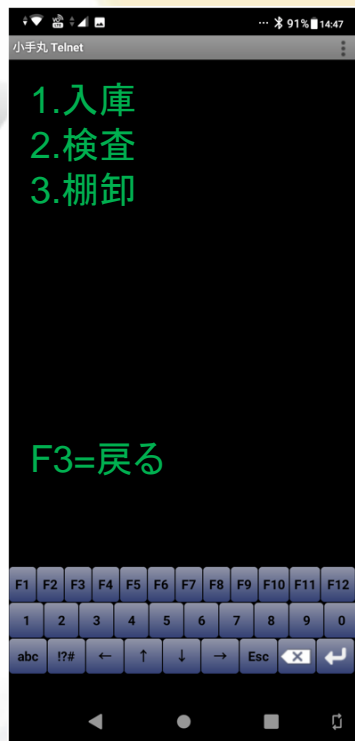
5250設定プログラムのご紹介



VT100エミュレータ (小手丸ちゃんVTエミュレータ)



Android 9~14

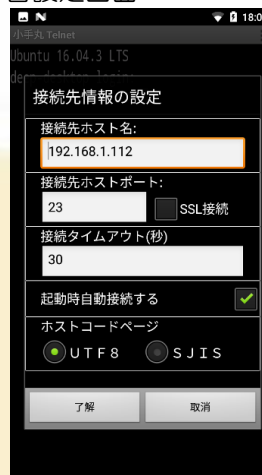


Telnet VT接続



ホスト

各設定画面



VTエミュレータにも対応しています

- ・日本語対応
- ・UTF8/SJISに対応
- ・VT100に対応
- ・文字サイズ(表示行桁)など各種設定可能

■ 制約事項

本ソフトウェアには以下の制限事項がありますのでご注意ください。

- SNA接続には対応していません。
- IBM Personal Communications におけるマクロ相当の機能は存在しません。
- IBM i (AS/400) にてMSGLOCを使用している場合は誤動作する恐れがあります。
- G属性のフィールドには対応していません。
- ラベルプリンタより印刷する場合はプリンタセッションを使用する方法とは異なります。
- プリンタと無線LAN接続を行う場合はインフラストラクチャモードになります。
- プログラムはapkファイルでの提供となります。(GooglePlayでの提供は行っておりません)